

平成26年度 学校経営報告

東京都立葛西工業高等学校長  
有 明 得良人

目指す学校（平成26年度）

1 目指す学校

優れた工業技術者・技能者の努力によって、我が国は工業立国として目覚ましく発展してきた。次代の発展のためには、引き続いて工業技術者・技能者の育成が不可欠である。

本校は、創立以来、校訓『真理を愛し、勤労をたっとび、責任を重んじる』を掲げ、50年間に渡りゆるぎないものとしている。技能を重視した工業高校のリーダー校として、基本的人権の精神を涵養させるとともに、生徒一人一人が、「義務と責任」を自覚し、豊かな創造性と独創性を発揮する地域に貢献する学校づくりを全教職員で取り組んでいく。

- (1) 学習指導、進路指導、生活指導を充実させ、心身共に健康な生徒を育成する学校。
- (2) 技術者・技能者になるための基礎・基本を学び、キャリア教育を通して健全な職業観・勤労観を育み、生徒が明るく元気で挨拶ができる「生きる力」を与える学校。
- (3) 行事、部活動、資格取得、ボランティア活動、地域活動へ積極的に参加し、コミュニケーション能力を高め潜在能力を発現させ、個性・能力を一層伸ばして、生徒が自信と誇りのもてる活力ある学校。
- (4) 地域の「ものづくり教育」の拠点となり、期待と信頼される学校。

上記目標に基づき、具体的な取り組み・成果・課題を以下に示した。

(A…大いに成果あり。B…概ね成果あり。C…やや成果あり。D…成果なし、改善が必要)

1 今年度の取組目標と方策と成果・自己評価

平成26年度の経営計画における 目標・方策	具体的な取り組み・成果と課題	自己評価
<b>(1) 教育活動の目標と方策</b> 生徒の実態に即し、P（計画）→D（実施）→C（評価）→A（改善）サイクルを定着させ、常に改善・充実を図る。 いじめ・差別・暴力そして体罰は、絶対に認めない・許さない・見逃さない方針を周知・徹底し、安心して学び、力の発揮できる教育環境創りに学校挙げて取り組む。		B
<b>① 学習指導</b>		B
1 生徒の実態に応じて、教科・科目の授業内容を精選し、基礎・基本を重視した学習内容を重視した自校の学力スタンダードを定め、学ぶ意欲を高め、学力の定着を図る。	1 基礎・基本を重視した学習内容としその定着を図るとともに、取り組みの低い生徒には、学期ごとに保護者面談を実施するなどして、保護者の協力を求めて指導にあたった。2学期・3学期には校長指導を実施した。また、定期考査に欠席した生徒の一覧表を作成して個別指導に活用する仕組みとした。加えて、個別指導対策会議を設置し2学期中間考査から実施した。 【課題】成果の上がらない生徒への指導法の研究と基礎学力を定着させること。 将来構想会議を活用して、生徒の基礎学力の定着について学校全体で取り組むこと。	B
2 授業時数の確保に努め、習熟度別授業、少人数授業等により、生徒の理解度に応じた授業を展開し、基礎学力の定着を図るとともに発展的内容を取り入れる。	2 授業を大切にすることを育成し、正規の授業時間の確保に努めた。英語・数学における習熟度別授業、家庭科における少人数授業を実現し、個別指導を可能にして、基礎学力の定着を図った。また、学業不振者の実情を個別指導対策会議後で明らかにし、その後の補講・補習を実施するとともに課題の提出を求めた。 【課題】個別指導にのらない生徒への指導法の研究を進め基礎学力の定着を図ること。	B
3 学校全体で授業規律の確保に努め、各教科・科目で、基本的な学ぶ姿勢の指導を徹底する。	3 チャイム同時授業開始が実現されてきたが、一部徹底を欠いた向きもある。 【課題】チャイム同時授業開始を学校全体の取組とすること。	B
4 生徒による授業評価と指導法の研究を実施するとともに、教員相互の授業見学や公開研究授業・研究協議会・校内研修等を行い、授業力向上に努め、授業改善を進める。	4 公開研究授業を27回実施するとともに公開研究授業後の研究協議を必ず実施し授業力向上を図った。 【課題】公開研究授業後の研究協議を一層充実させるとともに教員相互の授業見学を推進し校内研修に結びつけること。	B
5 専門教科においては、実験・実習を通して理論と基礎技能・技術を身につけさせる指導を充実させる。また、地域産業界（熟練講師）や職業能力開発センターとの人材交流等の有効活用を図り、教育効果を高める。	5 ガス溶接技能講習、高所作業車運転特別教育、玉掛・移動式クレーン特別教育を本校で実施し資格取得指導を推進した。 【課題】一層、工夫改善して生徒の参加しやすい形態とすること。	B

6 生徒が自ら調べ、考え、発表（プレゼンテーション）できる能力を伸ばさせる。	6 機械科・電子科・建築科の、3学年次課題研究発表会とデュアルシステムの発表会を実施し、プレゼンテーション能力を高めるとともに、2学年次の事前学習として設定した。また1学年次には全員が奉仕体験発表会を実施した。 【課題】内容の一層の充実を図るため、全校生徒・保護者を対象に発表会を実施すること。	B
7 教科「奉仕」の活動を通して他人に共感し、社会に役立つ喜びを体感させ、進んでボランティア活動や奉仕活動に参加する生徒を育成する。	7 教科「奉仕」の体験発表会では、はじめは戸惑いがあったものの、子供たちや高齢者からありがとうと声を掛けられ、人様に役に立っている実感を得てこの体験が大変有意義であったとの報告ばかりであった。本校で実現した中学生を対象とするバドミントン大会を開催したところ、自発的に運営に協力する生徒が現れた。 【課題】この体験により、様々なボランティア活動・奉仕活動に多くの生徒が積極的に参加する意識を高めること。	B
8 ICT機器を積極的に活用できる能力を高めるとともに、情報モラルを身に付けさせる。	8 情報モラル教育を推進するため、セーフティ教室で携帯電話・インターネットの安全活用について取り扱った。 【課題】ツイッター・ライン等に本人の許可なく写真を貼り付けるなどの行為も見られた。その都度、指導してきたが、インターネットや携帯電話の安全管理意識を高める指導を一層推進する必要がある。	B
<b>② 進路指導</b>		B
1 人間としての在り方・生き方の指導を充実させ、自己実現に向けた意識を高める。	1 各学年に一回以上、進路希望調査を実施した。 【課題】入校時アンケートを実施し、進路希望をはじめ、高校生活での希望や取組みを明らかにして面談に活用するとともに、統計処理を行い、経年変化をまとめること。	B
2 進路指導部、学年を中心に外部講師を活用するなど、進路ガイダンスを一層充実させる。	2 三年間のキャリア計画に基づき、毎学年に外部講師を招いた進路ガイダンスを実施し、進路意識の向上を図った。 【課題】進路指導部・学年との連携を強化すること。	B
3 2学年全員を対象とする技能習得型インターンシップ・就業体験型インターンシップを拡充させる。	3 インターンシップ参加者116名。受け入れ企業を増加させるため、江戸川区広報誌や江戸川区内の企業の会合に積極的に参加・依頼した。 【課題】インターンシップ・デュアルシステム受け入れ企業を一層増加させること。	B
4 デュアルシステムにおけるマナー講習（1年）・インターンシップ（2年）・長期就業訓練（3年）を充実させ、参加者を一層増加させる。	4 長期就業訓練の参加11名。就職5名 【課題】インターンシップからデュアルシステムへの接続を一層円滑にさせ、デュアルシステムにおける長期就業訓練受け入れ企業を増加させること。	B
<b>③ 生活指導</b>		B
1 遅刻指導、服装・頭髪指導等の改善・充実を進め、基本的な生活習慣の確立と規範意識の指導を徹底して、場に相応しい振る舞いのできる生徒を育成する。	1 毎朝の正門指導により生徒への声かけを実施して対話型の指導を定着させ、生徒は教員の指導によく従っている。指導の成果が上がらない場合は校長指導を実施した。 【課題】生徒が自ら考え、判断して行動できる能力の育成。取組みが進まない生徒への指導体制の構築。	B
2 日常の清掃活動等を通して、教室美化環境等に自ら目を向ける指導を行い、施設や設備を大切に扱う態度を育てる。また、ごみの分別を図ると共にリサイクル教育を徹底する。	2 日々の清掃活動で役割を明確にして責任を持たせる指導を充実させた。リサイクル教育推進のため、ペットボトルを再利用して植木鉢を製作し無料配付している。（玄関に設置） 【課題】一層、美化意識を育て、リサイクル教育を充実させること。植木鉢の人气が高く製作が追い付かなかった。いつでも配付できる体制とすること。	B
3 学校生活において、自己の可能性を引き出し、個性を発見・発揮できる機会を増加させるため、学校全体で、部活動を奨励するとともに、学校行事を一層精選・充実させる。	3 アルバイト原則禁止を徹底させ部活動加入を義務付けた、4月には80%を超える加入率だったが、12月には56%に留まった。 【課題】対外活動・早朝延長活動・休日活動等の届けを生徒自ら提出する仕組みを徹底させ、生徒自ら部活動運営する意識を向上させ、一層加入率を向上させること。	B
4 努力した生徒、成果をあげた生徒を認め、励ます、褒める指導を	4 資格取得や部活動での表彰は必ず全校集会にて伝達式を実施した。ラグビー部員3名が東京都代表とし	

行う。集会で表彰を行う。	て関東大会に出場し、関東大会で優勝。全国大会に出場することとなった。東京都を代表して出場する際には校内で激励会を実施した。 【課題】一層、部活動の対外活動実績を向上させること。	B
4 いじめ・差別・暴力をなくすため、スクールカウンセラーを一層活用し、養護教諭・学年・生活指導部との連携を強化して、教育相談機能を高め、未然防止・早期発見に努める。(1学年全員がスクールカウンセラーと面談する機会を設定する)	5 特別指導の際には、スクールカウンセラーとの面談を義務付け心のケアを実施した。また、1学年全員にスクールカウンセラーとの面談を義務付け課題をいち早く発見できる仕組みとした。教育相談推進委員会を設置したが初年度ということもあり機能しなかった。 【課題】スクールカウンセラーとの面談に積極的でない生徒への対応と、教育相談推進委員会を機能させること。	B
<b>④ 特別活動・部活動</b>		B
1 部活動加入率を高め、加入率100%を目指す。(アルバイト原則禁止を徹底させる)	1 入学後、体験入部期間を設け四月中に入部する仕組みとした。アルバイトの原則禁止を徹底するため、アルバイト届を提出させることとした。 【課題】アルバイト届の提出が一部徹底を欠いた。5月の加入状況を12月にも維持させること。	B
2 体育大会・江紫祭等の学校行事を一層充実させ、生徒に自主・自律の精神を涵養する。	2 学校行事の充実を図るとともに、生徒自ら企画運営する指導を推進した。その結果、生徒会による挨拶運動が実現した。また、江紫祭では、他校(六郷工科高・橘高・墨田工業高・白鷺特別支援学校)との連携を図り、一之江駅前でのねぶた巡行を実現した。(5年目) 【課題】一層、当事者意識を育て一人一人の帰属意識を高めること。ねぶた巡行の拡大・充実を図ること。このため組織を改編し実行委員会を設置すること。	A
3 地域の清掃活動等の実践により、生徒の社会貢献や思いやりの心を育み、豊かな人間性を育成する。また、地域との連携を一層強化し、愛される学校づくりを推進する。	3 教科「奉仕」において、生徒は地域のイベントでの自転車整備や清掃活動などを担当した。また、地域の駅前祭りや金魚祭りなどにも参加し、生徒は参加者からお褒めの言葉をいただいた。地域との連携は充分強化されたものと評価できる。 【課題】これらの体験により、生徒が自発的に奉仕活動・ボランティア活動に参加すること。	B
<b>⑤ 健康づくり</b>		B
1 学校におけるスポーツ活動全般の支援を進め、心と身体を鍛える。	1 体育大会・競技大会・マラソン大会等、学校行事としての取組みを推進した。 【課題】生徒の体力と精神的耐性の低下している現実を重く受け止め、あらゆる機会を通じて、心と身体を鍛えること。	B
2 学校保健計画に基づき、健康増進・安全指導を充実させる。万全なるインフルエンザ対策を講じる。	3 保健だよりの発行(年間10回)により、日々の健康増進について呼びかけ、周知・徹底した。インフルエンザによる学級閉鎖は起きなかった。 【課題】学校保健委員会を年に2回実施し、健康教育を充実させること。	B
3 交通安全教育、薬物乱用防止教室、普通救急救命講習会等を充実させ、自他の健康・安全を守る力を育成し、生命の尊厳について認識させる。	3 セーフティ教室を実施し、交通安全・薬物乱用・ネット犯罪・振り込め詐欺を題材として全校生徒に意識を高めさせた。また、救急救命講習を校内で実施し、参加しやすい環境とした。永年にわたり校内での救急救命講習の継続により東京消防庁から感謝状を授与された。 【課題】オートバイ事故が発生した。一層、交通安全教育、特にオートバイに関する安全教育を推進すること。また、自転車運転指導の充実を図ること。	B
4 「食育」に関して家庭と連携し、生徒自らが健康や食生活を考える健康指導を充実させる。	4 保健だよりの発行により、食の重要性を訴え、保護者に弁当持参を強く要請した。学校で購入する生徒は2割程度。 【課題】引き続き食の重要性を訴え続け、自弁の家庭を増加させること。	C
<b>⑥ 募集・広報活動(地域交流等)</b>		A
1 中学校訪問、学校説明会や入試説明会等の生徒募集・広報活動に組織的に取り組む。	1 生徒会の生徒による学校説明と学校案内が定着し、来校者から大絶賛された。また中学校からの要請に応え、中学校に向いて学校説明を行った。(江戸川区内9中学校) 学校広報委員会を中心に組織的な取組みとなった。	A

	<p>夏季休業中の学校見学会を4回実施し合計308名が来校した。  入試説明会を3回実施し、318名が来校した。  江戸川区の中学生バドミントン大会を本校で実施し、7校73名の参加が見られた。  【課題】一層生徒の活躍の場を広げること。引き続き中学生バドミントン大会を実施し、新たな種目を導入すること。</p>	
2 通年の学校公開、授業公開週間を年2回実施し地域に開かれた学校創りを推進する。	<p>2 通年に渡り学校公開し、中学生や保護者の学校見学を受け入れた。  授業公開週間を2回設定したが、来校者は10名に満たなかった。  【課題】授業公開週間の延長・行事に合わせる等の工夫をこらし来校し易く改善すること。</p>	C
3 地域行事への生徒の参加等、地域貢献に取り組み、生徒に自信と誇りを持たせる。	<p>3 多くの地域活動に参加し、その都度地域の方々から良い評価をいただき、生徒の自信と活動の原動力となった。  【課題】休日に13日地域貢献活動を実施した。引率教員の負担軽減を検討すること。</p>	A
4 江戸川区教育委員会、小・中・高校、産業団体等との連携・交流を推進する。	<p>4 江戸川区教育委員会との連携はできなかった。小・中・産業団体との連携は、前年度に引き続き充実した。  【課題】一層、連携先を拡充すること</p>	B
<b>⑦ 学校経営・組織体制</b>		B
1 デュアルシステムにおける受け入れ企業の新規開拓を推進する。	<p>1 受け入れ企業の新規開拓1社。  11社11名の実施。そのうち5名が正社員として勤務することとなった。葛西工業版デュアルシステムの発表会が今年度2回目となった。  【課題】インターンシップ受け入れ企業との連携を一層強化して、デュアルシステムに結びつけること。</p>	B
2 学校運営連絡協議会と学校評価委員会、学校保健委員会の充実を図る。	<p>2 学校運営連絡協議会では、協議委員の声をいち早く取り入れ、学校経営に活用した。今年度は、中学校長からの指摘を受け、地域の中学生に学校評価アンケートを導入した。併せて、評価アンケートの内容を全面改訂し分析しやすく改善した。  【課題】学校運営連絡協議会における学校評価アンケートの評価結果の分析方法の改善。学校保健委員会を年3回以上実施すること。</p>	C
3 設備拠点校実習の内容を充実させ、実施率の向上を図る。	<p>3 連携校の要望どおり通り25日実施できた。  【課題】内容の見直し改善を図ること。</p>	B
4 学校開放事業を拡充し、一層、施設開放・公開講座を充実させ、広く開かれた学校づくりを推進する。	<p>4 テニスコートの開放と初心者を対象とするテニスの公開講座を開講した。また、ねぶた製作とボクシングの公開講座を開講したが、受講者が集まらなかった。  【課題】公開講座を一層充実させるとともに、受講者が集まりやすい募集方法に工夫改善すること。</p>	B
5 将来構想会議を設置し、全教職員で本校のあるべき姿を協議し取り組むべき方を導き出す。	<p>5 入学者選抜におけるスポーツ推薦について協議検討を進めたが、今年度は見送ることとした。また、ねぶた運行の発展充実について検討した結果、実行委員会形式とし、文化祭の一週間後に設定することとした。  【課題】年に3回以上設置して、教職員の英知を結集させる場とすること。</p>	B
6 副主任制度の導入により、組織力の向上と一層の活性化を図る。	<p>6 副主任制度の導入により、各分掌・学年の組織力が一層向上した。また、教員の人財育成にもプラスの影響があった。  【課題】全ての主幹教諭・主任教諭に役割を与え、一層意欲的に職務を進めること。</p>	A
7 学校経営計画に基づく各分掌における組織目標の確立を図る。	<p>7 各分掌における組織目標を掲げることができた。  【課題】学校要覧に組織目標を掲載すること。</p>	C
8 葛西工業高校通信(校長通信)を月一回発行し、生徒・保護者に学校の現状を伝達するとともに、ホームページに公開し募集対策の一助とする。	<p>8 葛西工業高校通信(校長通信)を月一回(年間12回)発行し、学校の様子や生徒の取り組み・校長のメッセージをホームページに公開する予定だったが3回に留まった。  【課題】毎月の発行を実現すること。</p>	C
9 校舎内外の環境整備を進め、生徒の作品を展示できるスペースを創るとともに、樹木の植樹・草	<p>9 学校玄関周りを整備し、製作したねぶたを展示できるスペースを確保し3体展示した。  【課題】賞状・カップを展示できるスペースを拡充す</p>	

<p>花の植え込みを推進する。また、老朽化した施設設備の改修・修繕・補修を進めるとともに、新たに必要な設備の導入を図る。</p>	<p>ること。老朽化した施設設備の改修・修繕を一層進めること。桜の植樹を進めるとともに玄関周りに花の咲くスペースを作成すること。</p>	B																														
<p><b>(2) 重点目標と方策</b></p>		B																														
<p>① 基本的な生活習慣を確立して、授業に積極的に取り組む意欲と態度を高めさせ、進級率を増加させ、転・退学者を減少させる。</p>	<p>① 何らかの理由で学校を離れた生徒数 24名</p> <table border="1" data-bbox="699 315 1353 412"> <thead> <tr> <th></th> <th>1学年</th> <th>2学年</th> <th>3学年</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>25年度</td> <td>28名</td> <td>13名</td> <td>2名</td> <td>43名</td> </tr> <tr> <td>26年度</td> <td>7名</td> <td>15名</td> <td>2名</td> <td>24名</td> </tr> </tbody> </table> <p>25年度から、原級留置を希望する生徒に春休み中の特別指導を実施し、原級留置者3名は全員進級を果たした。 【課題】原級留置する生徒に二度と同じ結果にならない意識を高めさせ、残りの期間で卒業まで結びつけること。</p>		1学年	2学年	3学年	合計	25年度	28名	13名	2名	43名	26年度	7名	15名	2名	24名	B															
	1学年	2学年	3学年	合計																												
25年度	28名	13名	2名	43名																												
26年度	7名	15名	2名	24名																												
<p>1 認め・励ます・褒める指導を一層充実させ、生徒の学ぶ意欲を育てる。</p>	<p>1 各種資格取得・部活動の成果については、全て集会で伝達式を実施した。東京都を代表して大会に出場する際には、全校集会で激励会を実施した。 【課題】生徒会が中心となって企画・運営する激励会とすること。</p>	A																														
<p>2 学年と分掌間の連携を密にし、生徒の基本的な生活習慣の確立を徹底する。</p>	<p>2 全学年で拡大学年會を実施し、生徒の実情を全教職員に伝え、学校全体で取組める仕組みとした。また、些細な出来事も見逃さず、分掌（特に生活指導部）への報告・連絡を密にとり、必要な場合には特別指導・校長指導を実施した。 【課題】生徒の非行の未然防止指導を一層充実させること。</p>	B																														
<p>3 生徒の課題解決のため、保護者と連絡を密に協力・連携を図る。</p>	<p>3 昨年度から学業不振者には学期ごとに保護者面談と校長指導を実施した。2年目を迎え定着した。 【課題】課題ある生徒への学校全体としての取り組みを強化すること。</p>	A																														
<p>4 非行を未然に防ぐ指導を充実させ、特別指導の減少を図る。</p>	<p>4 ほんの少しの変化も見逃さず、ちょっとしたことでもきちんと指導していく方針を浸透させ、教科・学年・分掌等で組織的に対応することとした。特別指導件数は、27件から6件と激減させた。 【課題】一層、きめ細やかな指導を進め、保護者との連携を強化すること。</p>	A																														
<p>5 皆勤・精勤者の増加と遅刻常習者の減少 6 遅刻指導の一層の改善・充実を進め、遅刻常習者の減少と皆勤・精勤者の増加を図る。</p>	<p>5 皆勤・精勤者の推移（目標60%）</p> <table border="1" data-bbox="691 1267 1361 1424"> <thead> <tr> <th></th> <th>1学年</th> <th>2学年</th> <th>3学年</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>25年度</td> <td>65名 42.2%</td> <td>38名 26.2%</td> <td>56名 35.7%</td> <td>159名 34.8%</td> </tr> <tr> <td>26年度</td> <td>94名 54.3%</td> <td>57名 40.1%</td> <td>28名 19.5%</td> <td>179名 39.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>6 遅刻10回以上の生徒（目標20%以下）</p> <table border="1" data-bbox="691 1453 1361 1610"> <thead> <tr> <th></th> <th>1学年</th> <th>2学年</th> <th>3学年</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>25年度</td> <td>36名 23.4%</td> <td>53名 36.5%</td> <td>57名 36.3%</td> <td>146名 32.0%</td> </tr> <tr> <td>26年度</td> <td>57名 32.9%</td> <td>61名 43.0%</td> <td>62名 43.3%</td> <td>180名 39.3%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】精勤者と遅刻常習者がほぼ同じ数値となっている。少なくとも遅刻常習者数を精勤者数が上回ること。</p>		1学年	2学年	3学年	合計	25年度	65名 42.2%	38名 26.2%	56名 35.7%	159名 34.8%	26年度	94名 54.3%	57名 40.1%	28名 19.5%	179名 39.0%		1学年	2学年	3学年	合計	25年度	36名 23.4%	53名 36.5%	57名 36.3%	146名 32.0%	26年度	57名 32.9%	61名 43.0%	62名 43.3%	180名 39.3%	C
	1学年	2学年	3学年	合計																												
25年度	65名 42.2%	38名 26.2%	56名 35.7%	159名 34.8%																												
26年度	94名 54.3%	57名 40.1%	28名 19.5%	179名 39.0%																												
	1学年	2学年	3学年	合計																												
25年度	36名 23.4%	53名 36.5%	57名 36.3%	146名 32.0%																												
26年度	57名 32.9%	61名 43.0%	62名 43.3%	180名 39.3%																												
<p>7 部活動の加入率を向上させ、一層の活性化を進め帰属意識を高めさせる。</p>	<p>7 加入率は、5月期には80%以上を維持しているが、年度末には56%に留まった。</p> <table border="1" data-bbox="699 1760 1090 1946"> <thead> <tr> <th></th> <th>5月期 加入率</th> <th>2学期末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>23年度</td> <td>85%</td> <td>未調査</td> </tr> <tr> <td>24年度</td> <td>80%</td> <td>未調査</td> </tr> <tr> <td>25年度</td> <td>82%</td> <td>未調査</td> </tr> <tr> <td>26年度</td> <td>87%</td> <td>56%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】年度末まで、しっかり活動させるための工夫・改善を進めること。</p>		5月期 加入率	2学期末	23年度	85%	未調査	24年度	80%	未調査	25年度	82%	未調査	26年度	87%	56%	C															
	5月期 加入率	2学期末																														
23年度	85%	未調査																														
24年度	80%	未調査																														
25年度	82%	未調査																														
26年度	87%	56%																														

<p>② 就職希望達成率100%を維持し、卒業時の未就業者を無くす。</p>	<p>② 就職希望達成率 5年連続100%達成</p> <table border="1" data-bbox="671 163 1361 387"> <thead> <tr> <th></th> <th>就職希望者</th> <th>就職内定者</th> <th>進学希望者</th> <th>進学決定者</th> <th>内定合計</th> <th>卒業者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>22年度</td> <td>103名</td> <td>103名</td> <td>34名</td> <td>32名</td> <td>135</td> <td>137</td> </tr> <tr> <td>23年度</td> <td>95名</td> <td>95名</td> <td>51名</td> <td>48名</td> <td>143</td> <td>146</td> </tr> <tr> <td>24年度</td> <td>91名</td> <td>91名</td> <td>50名</td> <td>47名</td> <td>138</td> <td>141</td> </tr> <tr> <td>25年度</td> <td>99名</td> <td>99名</td> <td>58名</td> <td>49名</td> <td>148</td> <td>157</td> </tr> <tr> <td>26年度</td> <td>106名</td> <td>106名</td> <td>37名</td> <td>36名</td> <td>142</td> <td>143</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】安易な進学を認めない体制を一層強化すること。</p>		就職希望者	就職内定者	進学希望者	進学決定者	内定合計	卒業者数	22年度	103名	103名	34名	32名	135	137	23年度	95名	95名	51名	48名	143	146	24年度	91名	91名	50名	47名	138	141	25年度	99名	99名	58名	49名	148	157	26年度	106名	106名	37名	36名	142	143	A
	就職希望者	就職内定者	進学希望者	進学決定者	内定合計	卒業者数																																						
22年度	103名	103名	34名	32名	135	137																																						
23年度	95名	95名	51名	48名	143	146																																						
24年度	91名	91名	50名	47名	138	141																																						
25年度	99名	99名	58名	49名	148	157																																						
26年度	106名	106名	37名	36名	142	143																																						
<p>1 卒業生・市民講師を活用した進路ガイダンスを年間3回以上行い自己実現に努めさせる。</p>	<p>1 進路ガイダンスを年間3回実施し進路意識を高めさせた。 【課題】一層 進路意識を高めさせること。</p>	B																																										
<p>2 東小松川工場会等の企業見学会・講演会を実施する。</p>	<p>2 東小松川工場会の企業見学会・講演会を実施するとともに、各科（機械・電子・建築）の工場見学会（新規）を実現させた。 【課題】東小松川工場会の見学会は機械科に限らず三科で実施すること。</p>	B																																										
<p>3 インターンシップ協力企業を増加させ、全生徒の参加を目指す。</p>	<p>3 インターンシップ協力企業と参加者の推移</p> <table border="1" data-bbox="699 712 1265 902"> <thead> <tr> <th></th> <th>協力企業</th> <th>参加者</th> <th>就職者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>22年度</td> <td>15社</td> <td>32名</td> <td>0名</td> </tr> <tr> <td>23年度</td> <td>38社</td> <td>71名</td> <td>4名</td> </tr> <tr> <td>24年度</td> <td>60社</td> <td>84名</td> <td>9名</td> </tr> <tr> <td>25年度</td> <td>76社</td> <td>113名</td> <td>10名</td> </tr> <tr> <td>26年度</td> <td>76社</td> <td>117名</td> <td>11名</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】あらゆる手立てを講じて協力企業数を増加させ、全生徒をインターンシップに参加させること。</p>		協力企業	参加者	就職者	22年度	15社	32名	0名	23年度	38社	71名	4名	24年度	60社	84名	9名	25年度	76社	113名	10名	26年度	76社	117名	11名	B																		
	協力企業	参加者	就職者																																									
22年度	15社	32名	0名																																									
23年度	38社	71名	4名																																									
24年度	60社	84名	9名																																									
25年度	76社	113名	10名																																									
26年度	76社	117名	11名																																									
<p>③ 国家資格取得者、検定合格・認定者を増加させる。</p>	<p>③ 別紙参照 数値的には少々上向いた。 【課題】教科としての取り組みを強化すること。</p>	B																																										
<p>1 関連する授業等を活用し、各教科における資格取得指導を充実させる。</p>	<p>1 資格取得と授業との関連を深めて資格取得への意識を高めさせた。第2種電気工事士に34名が合格した（不合格者1名） 【課題】教科としての取組みを強化すること。</p>	B																																										
<p>2 資格取得、検定、ものづくりコンテスト等に積極的に挑戦する意識・意欲を高めさせる。</p>	<p>2 放課後の補習を充実させ資格取得の意識を高めさせ積極的に挑戦する意欲が高まった。日本化学会関東大会に銀樹の研究を発表し、330名参加のところ第一位に輝いた。 【課題】教科としての取組みを強化すること。一層、コンテスト・発表会への参加意欲を高めること。</p>	B																																										
<p>(3) 数値目標（25年度実績）</p>		B																																										
<p>① 1年生の進級率（90%）目標 昨年度以上の実績 進級者（近年の経緯）</p> <table border="1" data-bbox="451 1417 1114 1574"> <thead> <tr> <th></th> <th>1学年</th> <th>2学年</th> <th>3学年</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>25年度</td> <td>154名 84.6%</td> <td>145名 91.8%</td> <td>157名 98.8%</td> <td>456名 91.4%</td> </tr> <tr> <td>26年度</td> <td>173名 95.6%</td> <td>142名 90.4%</td> <td>143名 98.6%</td> <td>458名 94.8%</td> </tr> </tbody> </table> <p>昨年度の85%から96%へ11ポイント増加した。 【課題】学年・クラスに偏りのあること。また、2学年から3学年への進級率が最も低いこと。一層全ての生徒を進級させる教育力を向上させること。</p>			1学年	2学年	3学年	合計	25年度	154名 84.6%	145名 91.8%	157名 98.8%	456名 91.4%	26年度	173名 95.6%	142名 90.4%	143名 98.6%	458名 94.8%	B																											
	1学年	2学年	3学年	合計																																								
25年度	154名 84.6%	145名 91.8%	157名 98.8%	456名 91.4%																																								
26年度	173名 95.6%	142名 90.4%	143名 98.6%	458名 94.8%																																								
<p>② 退学者の減少・目標0名 退学者数（近年の経緯） 26年度16名</p> <table border="1" data-bbox="451 1720 1114 1910"> <thead> <tr> <th></th> <th>1学年</th> <th>2学年</th> <th>3学年</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>22年度</td> <td>20名</td> <td>14名</td> <td>4名</td> <td>38名</td> </tr> <tr> <td>23年度</td> <td>11名</td> <td>16名</td> <td>1名</td> <td>28名</td> </tr> <tr> <td>24年度</td> <td>14名</td> <td>9名</td> <td>2名</td> <td>25名</td> </tr> <tr> <td>25年度</td> <td>22名</td> <td>9名</td> <td>2名</td> <td>33名</td> </tr> <tr> <td>26年度</td> <td>6名</td> <td>9名</td> <td>1名</td> <td>16名</td> </tr> </tbody> </table> <p>定期考査毎に個別指導対策会議を設置し学校全体で学業不振者への指導にあたった。その結果、飛躍的に退学者が減少した。 【課題】各学期毎に、成績不振者の保護者とともに三者面談を実施し、学業に力を入れさせる指導を強化した。また日々の学習指導を一層強化するとともに、きめ細やかな生活指導を進め、入学した全生徒を進級・卒業させること。また、スクールカウンセラーの活用により、不登校の未然防止に努めること。</p>			1学年	2学年	3学年	合計	22年度	20名	14名	4名	38名	23年度	11名	16名	1名	28名	24年度	14名	9名	2名	25名	25年度	22名	9名	2名	33名	26年度	6名	9名	1名	16名	A												
	1学年	2学年	3学年	合計																																								
22年度	20名	14名	4名	38名																																								
23年度	11名	16名	1名	28名																																								
24年度	14名	9名	2名	25名																																								
25年度	22名	9名	2名	33名																																								
26年度	6名	9名	1名	16名																																								

<p>③ 皆勤・精勤者の増加と遅刻常習者の減少 1 皆勤・精勤者の推移（目標60%）</p> <table border="1" data-bbox="454 190 1114 347"> <thead> <tr> <th></th> <th>1学年</th> <th>2学年</th> <th>3学年</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>25年度</td> <td>65名 42.2%</td> <td>38名 26.2%</td> <td>56名 35.7%</td> <td>159名 34.8%</td> </tr> <tr> <td>26年度</td> <td>94名 54.3%</td> <td>57名 40.1%</td> <td>28名 19.5%</td> <td>179名 39.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 遅刻10回以上の生徒（目標20%以下）</p> <table border="1" data-bbox="454 376 1114 533"> <thead> <tr> <th></th> <th>1学年</th> <th>2学年</th> <th>3学年</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>25年度</td> <td>36名 23.4%</td> <td>53名 36.5%</td> <td>57名 36.3%</td> <td>146名 32.0%</td> </tr> <tr> <td>26年度</td> <td>57名 32.9%</td> <td>61名 43.0%</td> <td>62名 43.3%</td> <td>180名 39.3%</td> </tr> </tbody> </table>		1学年	2学年	3学年	合計	25年度	65名 42.2%	38名 26.2%	56名 35.7%	159名 34.8%	26年度	94名 54.3%	57名 40.1%	28名 19.5%	179名 39.0%		1学年	2学年	3学年	合計	25年度	36名 23.4%	53名 36.5%	57名 36.3%	146名 32.0%	26年度	57名 32.9%	61名 43.0%	62名 43.3%	180名 39.3%	C												
	1学年	2学年	3学年	合計																																							
25年度	65名 42.2%	38名 26.2%	56名 35.7%	159名 34.8%																																							
26年度	94名 54.3%	57名 40.1%	28名 19.5%	179名 39.0%																																							
	1学年	2学年	3学年	合計																																							
25年度	36名 23.4%	53名 36.5%	57名 36.3%	146名 32.0%																																							
26年度	57名 32.9%	61名 43.0%	62名 43.3%	180名 39.3%																																							
<p>④ 特別指導件数・対象者数の減少（27件28名） 目標・前年度以下（6件19名） 特別指導件数・対象者数の推移</p> <table border="1" data-bbox="454 627 1114 784"> <thead> <tr> <th></th> <th>1学年</th> <th>2学年</th> <th>3学年</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>25年度</td> <td>14件 14名</td> <td>12件 12名</td> <td>1件 2名</td> <td>27件 28名</td> </tr> <tr> <td>26年度</td> <td>1件 11名</td> <td>4件 7名</td> <td>1件 1名</td> <td>6件 19名</td> </tr> </tbody> </table> <p>昨年度27件から6件へと大きく減少した。 【課題】一層、きめ細やかな指導を進め、保護者との連携を強化すること。</p>		1学年	2学年	3学年	合計	25年度	14件 14名	12件 12名	1件 2名	27件 28名	26年度	1件 11名	4件 7名	1件 1名	6件 19名	A																											
	1学年	2学年	3学年	合計																																							
25年度	14件 14名	12件 12名	1件 2名	27件 28名																																							
26年度	1件 11名	4件 7名	1件 1名	6件 19名																																							
<p>⑤ 部活動加入率（82%）昨年度以上の実績 部活動加入率は、87%（5月現在） 四月に全員加入の指導を行い、多くの生徒は何らかの部活動に名を連ねているが、実際に活動している生徒は加入数と一致していない現実がある。</p> <table border="1" data-bbox="454 929 845 1120"> <thead> <tr> <th></th> <th>5月期 加入率</th> <th>2学期末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>23年度</td> <td>85%</td> <td>未調査</td> </tr> <tr> <td>24年度</td> <td>80%</td> <td>未調査</td> </tr> <tr> <td>25年度</td> <td>82%</td> <td>未調査</td> </tr> <tr> <td>26年度</td> <td>87%</td> <td>56%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】5月現在では上記の数値だが、2学期末の状況を調査し、実際に活動している生徒数を明らかにし、その活動状況を向上させること。</p>		5月期 加入率	2学期末	23年度	85%	未調査	24年度	80%	未調査	25年度	82%	未調査	26年度	87%	56%	C																											
	5月期 加入率	2学期末																																									
23年度	85%	未調査																																									
24年度	80%	未調査																																									
25年度	82%	未調査																																									
26年度	87%	56%																																									
<p>⑥ 就職・進学希望達成率 引き続き100%（100%） 就職希望主100%内定（106名）・進学希望者1名未定。（決定者36名）</p> <table border="1" data-bbox="438 1243 1125 1467"> <thead> <tr> <th></th> <th>就職 希望者</th> <th>就職 内定者</th> <th>進学 希望者</th> <th>進学 決定者</th> <th>内定 合計</th> <th>卒業 者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>22年度</td> <td>103名</td> <td>103名</td> <td>34名</td> <td>32名</td> <td>135</td> <td>137</td> </tr> <tr> <td>23年度</td> <td>95名</td> <td>95名</td> <td>51名</td> <td>48名</td> <td>143</td> <td>146</td> </tr> <tr> <td>24年度</td> <td>91名</td> <td>91名</td> <td>50名</td> <td>47名</td> <td>138</td> <td>141</td> </tr> <tr> <td>25年度</td> <td>99名</td> <td>99名</td> <td>58名</td> <td>49名</td> <td>148</td> <td>157</td> </tr> <tr> <td>26年度</td> <td>106名</td> <td>106名</td> <td>37名</td> <td>36名</td> <td>142</td> <td>143</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】一層多くの生徒に就職内定させること。安易な進学は認めない方針を周知・徹底すること。卒業後の追跡調査を実施し、離職者・進路変更者を突き止め、指導を進めること。</p>		就職 希望者	就職 内定者	進学 希望者	進学 決定者	内定 合計	卒業 者数	22年度	103名	103名	34名	32名	135	137	23年度	95名	95名	51名	48名	143	146	24年度	91名	91名	50名	47名	138	141	25年度	99名	99名	58名	49名	148	157	26年度	106名	106名	37名	36名	142	143	A
	就職 希望者	就職 内定者	進学 希望者	進学 決定者	内定 合計	卒業 者数																																					
22年度	103名	103名	34名	32名	135	137																																					
23年度	95名	95名	51名	48名	143	146																																					
24年度	91名	91名	50名	47名	138	141																																					
25年度	99名	99名	58名	49名	148	157																																					
26年度	106名	106名	37名	36名	142	143																																					
<p>⑦ 第2学年におけるインターンシップ参加者数の増加（113名・75%） インターンシップ・長期就業訓練への参加者と参加企業への就職推移</p> <table border="1" data-bbox="454 1585 1114 1809"> <thead> <tr> <th></th> <th>インター ンシップ</th> <th>参加者 就職者</th> <th>長期就 業訓練</th> <th>参加者 就職者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>22年度</td> <td>11名</td> <td>0名</td> <td>0名</td> <td>0名</td> </tr> <tr> <td>23年度</td> <td>76名</td> <td>4名</td> <td>0名</td> <td>0名</td> </tr> <tr> <td>24年度</td> <td>81名</td> <td>9名</td> <td>0名</td> <td>0名</td> </tr> <tr> <td>25年度</td> <td>113名</td> <td>10名</td> <td>12名</td> <td>4名</td> </tr> <tr> <td>26年度</td> <td>116名</td> <td>11名</td> <td>11名</td> <td>5名</td> </tr> </tbody> </table>		インター ンシップ	参加者 就職者	長期就 業訓練	参加者 就職者	22年度	11名	0名	0名	0名	23年度	76名	4名	0名	0名	24年度	81名	9名	0名	0名	25年度	113名	10名	12名	4名	26年度	116名	11名	11名	5名	A												
	インター ンシップ	参加者 就職者	長期就 業訓練	参加者 就職者																																							
22年度	11名	0名	0名	0名																																							
23年度	76名	4名	0名	0名																																							
24年度	81名	9名	0名	0名																																							
25年度	113名	10名	12名	4名																																							
26年度	116名	11名	11名	5名																																							
<p>⑧ 各種資格取得数 3資格以上 25年度61%（96名）最高取得数18資格 未達成者61名 26年度82%（117名）最高取得数16資格 未達成者26名 各種資格取得数の推移</p> <table border="1" data-bbox="454 1933 1114 2112"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">取得数</th> <th rowspan="2">平均</th> <th rowspan="2">最高 取得数</th> </tr> <tr> <th>0-2</th> <th>3-5</th> <th>6以上</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>25年度</td> <td>61名 39%</td> <td>58名 37%</td> <td>38名 24%</td> <td>4.5</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>26年度</td> <td>26名 18%</td> <td>68名 48%</td> <td>49名 34%</td> <td>5.1</td> <td>16</td> </tr> </tbody> </table>		取得数			平均	最高 取得数	0-2	3-5	6以上	25年度	61名 39%	58名 37%	38名 24%	4.5	18	26年度	26名 18%	68名 48%	49名 34%	5.1	16	B																					
		取得数					平均	最高 取得数																																			
	0-2	3-5	6以上																																								
25年度	61名 39%	58名 37%	38名 24%	4.5	18																																						
26年度	26名 18%	68名 48%	49名 34%	5.1	16																																						

⑥ 各種資格等取得者数  
1 ジュニアマイスター顕彰

種 別	目 標	22年度 実績	23年度 実績	24年度 実績	25年度 実績	26年度 実績
ゴールド	前年度以上の実績	8名	13名	14名	4名	1名
シルバー	前年度以上の実績	15名	15名	7名	8名	9名
特別表彰 計	前年度以上の実績	23名	28名	21名	12名	10名

2 国家資格並びに各検定等

資 格・免 許 等		目標	22年度 合格者	23年度 合格者	24年度 合格者	25年度 合格者	26年度 合格者
危険物取扱者	内 種	前 年 度 以 上		35名	32名	32名	22名
	乙種第4類		13名	2名	9名	0名	3名
	乙種第5類			1名	1名	0名	
	乙種第6類			2名	2名	0名	
消防設備士	乙種第4類			5名	1名	4名	2名
	乙種第7類			8名	4名	8名	10名
第2級陸上特殊無線技師				7名			
第2級海上特殊無線技師				2名			
航空特殊無線技師				1名	1名		
工事 担任者	AI第3種			4名	5名	13名	1名
	DD第3種		8名	5名	11名	11名	5名
	DD第1種						2名
	AI・DD総合			0名	1名	0名	
第2種電気工事士			19名	27名	21名	26名	34名
第1種電気工事士				13名	4名	1名	1名
技能士	建築大工2級		2名	1名			0名
	建築大工3級		13名	1名	11名	5名	
	とび2級		1名	1名			0名
	とび3級		3名	12名	7名	9名	4名
	機械保全3級		5名	6名	6名	7名	
	電気機器組立3級			0名	6名	0名	
普通旋盤作業3級			2名	0名	0名	1名	
品質管理検定(QC検定)				0名	18名		
ガス溶接技能講習			50名	49名	43名	67名	95名
アーク溶接特別教育			47名	39名	44名	85名	
フォークリフト運転特別教育			66名			153名	
高所作業車運転特別教育				51名			53名
小型車両系建設機械特別教育					45名		
玉掛・移動式クレーン特別教育							65名
施工管理技術者検定2級			0名	0名	0名	2名	0名
福祉住環境コーディネーター3級			0名	0名	0名	2名	
日本語 ワープロ 検定	2級			0名	2名	2名	
	準2級			1名	6名		
	3級			22名	22名	17名	5名
	4級			12名	14名		
情報処理 技能検定	2級				2名	11名	5名
	3級				12名	5名	
パソコン 検定(P検)	準2級					15名	
	3級			3名	0名	4名	
	4級			23名	0名	15名	35名
文書処理能力検定3級					6名		
日本漢字 能力検定	2級			0名	1名	1名	0名
	準2級			22名	2名	2名	0名
	3級			34名	15名	7名	0名
	4級			0名	1名	6名	0名
実用英語技能検定3級				1名			0名
実用数学技能検定3級				0名	3名	3名	0名
計算技術 検定	2級		2名	3名		5名	
	3級		144名	132名	105名	93名	128名
	4級		163名	157名	76名	55名	105名
情報技術 検定	2級			24名	14名	13名	
	3級			54名	81名	47名	46名
機械製図検定				37名	13名	8名	
基礎製図検定				24名	31名	19名	21名
延べ人数			540	822	715	728	648



2 中期的目標・方策と成果・自己評価（参考）

平成26年度の経営計画における目標・方策	具体的な取組み・成果と課題 2 中期的目標と方策	自己評価																														
デュアルシステム推進校としてキャリア教育や設備拠点校実習を充実・発展させていく。「時を守り、場を清め、礼を尽くす」教育を全教育活動で推進していく。 (1) 進路目標を明らかにし、規範意識と基本的な生活習慣を確立させ、自主・自律の精神を育てる。		C																														
① 生徒全員にインターンシップを体験させ、進路目標を明確にする。 (進路指導)	① インターンシップ参加者116名(82%) <table border="1" data-bbox="699 398 1358 638"> <thead> <tr> <th></th> <th>インターンシップ</th> <th>参加者就職者</th> <th>長期就業訓練</th> <th>参加者就職者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>22年度</td> <td>11名</td> <td>0名</td> <td>0名</td> <td>0名</td> </tr> <tr> <td>23年度</td> <td>76名</td> <td>4名</td> <td>0名</td> <td>0名</td> </tr> <tr> <td>24年度</td> <td>81名</td> <td>9名</td> <td>0名</td> <td>0名</td> </tr> <tr> <td>25年度</td> <td>111名</td> <td>10名</td> <td>12名</td> <td>4名</td> </tr> <tr> <td>26年度</td> <td>116名</td> <td>11名</td> <td>11名</td> <td>5名</td> </tr> </tbody> </table> 【課題】インターンシップ受け入れ企業と、3年次の長期就業訓練に希望する生徒を一層増加させること。		インターンシップ	参加者就職者	長期就業訓練	参加者就職者	22年度	11名	0名	0名	0名	23年度	76名	4名	0名	0名	24年度	81名	9名	0名	0名	25年度	111名	10名	12名	4名	26年度	116名	11名	11名	5名	B
	インターンシップ	参加者就職者	長期就業訓練	参加者就職者																												
22年度	11名	0名	0名	0名																												
23年度	76名	4名	0名	0名																												
24年度	81名	9名	0名	0名																												
25年度	111名	10名	12名	4名																												
26年度	116名	11名	11名	5名																												
② 欠席・遅刻・早退を防止する指導を組織的に進め、1年間皆勤・精勤の生徒が60%以上を目指す。また、遅刻常習者を減少させるため、遅刻指導の充実・強化を図る。 (生活指導)	② 1 皆勤・精勤者の推移(目標60%) <table border="1" data-bbox="699 790 1358 958"> <thead> <tr> <th></th> <th>1学年</th> <th>2学年</th> <th>3学年</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>25年度</td> <td>65名 42.2%</td> <td>38名 26.2%</td> <td>56名 35.7%</td> <td>159名 34.8%</td> </tr> <tr> <td>26年度</td> <td>94名 54.3%</td> <td>57名 40.1%</td> <td>28名 19.5%</td> <td>179名 39.0%</td> </tr> </tbody> </table> 2 遅刻10回以上の生徒(目標20%以下) <table border="1" data-bbox="699 992 1358 1160"> <thead> <tr> <th></th> <th>1学年</th> <th>2学年</th> <th>3学年</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>25年度</td> <td>36名 23.4%</td> <td>53名 36.5%</td> <td>57名 36.3%</td> <td>146名 32.0%</td> </tr> <tr> <td>26年度</td> <td>57名 32.9%</td> <td>61名 43.0%</td> <td>62名 43.3%</td> <td>180名 39.3%</td> </tr> </tbody> </table> 遅刻常習者には生活指導部による遅刻指導を実施し、成果の挙がらない場合には校長指導する仕組みとした。 【課題】特定のクラスに偏りがあること。遅刻常習者への特別指導を実現させること。		1学年	2学年	3学年	合計	25年度	65名 42.2%	38名 26.2%	56名 35.7%	159名 34.8%	26年度	94名 54.3%	57名 40.1%	28名 19.5%	179名 39.0%		1学年	2学年	3学年	合計	25年度	36名 23.4%	53名 36.5%	57名 36.3%	146名 32.0%	26年度	57名 32.9%	61名 43.0%	62名 43.3%	180名 39.3%	C
	1学年	2学年	3学年	合計																												
25年度	65名 42.2%	38名 26.2%	56名 35.7%	159名 34.8%																												
26年度	94名 54.3%	57名 40.1%	28名 19.5%	179名 39.0%																												
	1学年	2学年	3学年	合計																												
25年度	36名 23.4%	53名 36.5%	57名 36.3%	146名 32.0%																												
26年度	57名 32.9%	61名 43.0%	62名 43.3%	180名 39.3%																												
③ 社会のルールやマナーを守り、基本的な生活習慣を確立する指導を徹底させる。 (生活指導)	③ 毎朝の正門指導・毎昼の巡回指導を実施して生徒への声かけを進めている。些細な変化も見逃さずに指導する体制とした。特別指導が必要な案件には、登校させて別室でわかるまで指導する体制とした。 <table border="1" data-bbox="699 1456 1358 1624"> <thead> <tr> <th></th> <th>1学年</th> <th>2学年</th> <th>3学年</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>25年度</td> <td>14件 14名</td> <td>12件 12名</td> <td>1件 2名</td> <td>27件 28名</td> </tr> <tr> <td>26年度</td> <td>1件 11名</td> <td>4件 7名</td> <td>1件 1名</td> <td>6件 19名</td> </tr> </tbody> </table> その都度、校長指導を実施し毎日登校させて別室指導。わかるまで指導する体制が定着した。件数は激減した。 【課題】特別指導案件を未然に防止する方策を徹底すること。		1学年	2学年	3学年	合計	25年度	14件 14名	12件 12名	1件 2名	27件 28名	26年度	1件 11名	4件 7名	1件 1名	6件 19名	B															
	1学年	2学年	3学年	合計																												
25年度	14件 14名	12件 12名	1件 2名	27件 28名																												
26年度	1件 11名	4件 7名	1件 1名	6件 19名																												
④ 学校保健計画をもとに、生徒が自分の安全と健康を守る力を育む指導をする。(健康づくり)	④ 学校保健計画をもとに保健だよりを年間8回発行し、健康・安全意識を高めた。 【課題】学校保健委員会・学校教育相談推進委員会を機能させること。	B																														
(2) ものづくり教育を推進し、技能・技術を習得させ、健全な職業観・勤労観を育み、無業者ゼロを目指す。		A																														
① 基礎・基本的な実験・実習を通して体験的な理解と技能・技術の習得を図る。(学習指導)	① 基礎的・基本的な内容を重視し、取組みの低い生徒には放課後の補習・朝学習等を実施して技能・技術の習得に努めた。このため定期考査欠席者一覧表を作成し個別指導対策会議を実施した。 【課題】定期考査・学期毎の指導を一層充実させること。	B																														

	と。																						
② 職業資格、検定、競技会に積極的に挑戦し、卒業まで3つ以上取得させる。	② 各種資格取得数の推移 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">取得数</th> <th rowspan="2">平均</th> <th rowspan="2">最高取得数</th> </tr> <tr> <th>0-2</th> <th>3-5</th> <th>6以上</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>25年度</td> <td>61名 39%</td> <td>58名 37%</td> <td>38名 24%</td> <td>4.5</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>26年度</td> <td>26名 18%</td> <td>68名 48%</td> <td>49名 34%</td> <td>5.1</td> <td>16</td> </tr> </tbody> </table> <p>目標達成できない生徒が39%から18%へと21ポイント減少した。 【課題】クラス・学科により偏りのあること。1・2学年次からデータ管理して、資格取得意識を高揚させること。</p>		取得数			平均	最高取得数	0-2	3-5	6以上	25年度	61名 39%	58名 37%	38名 24%	4.5	18	26年度	26名 18%	68名 48%	49名 34%	5.1	16	B
	取得数			平均	最高取得数																		
	0-2	3-5	6以上																				
25年度	61名 39%	58名 37%	38名 24%	4.5	18																		
26年度	26名 18%	68名 48%	49名 34%	5.1	16																		
③ 全教科・科目の中で環境教育に取り組み、身の回りの環境を守る意識を醸成する。(学習指導)	③ 全教科での取り組みまでには至らなかった。保健・家庭・公民等で一部の教科・科目で実施した。 【課題】授業場面を活用して、教室の整備など身近なところから指導を進めること。	C																					
④ 地域の産業界や職業能力開発センターと連携し技能・技術指導を行う。(学校経営・組織体制)	④ 地域の工場会との連携を図り、工場見学会を実施した。 【課題】新たな連携先を開発すること。	B																					
(3) 自己の能力を最大限発揮させ、	自信と誇りを培い、全員進級・卒業を目指す。	B																					
① 努力している生徒、成果をあげた生徒を認め、褒め、励ます指導を行う。(生活指導・進路指導・学習指導)	① 資格取得や部活動での表彰は必ず全校集会にて伝達式を実施した。 【課題】全般的な成果をもたらした時には、壮行会・激励会等を実施する方針を定着させること。	B																					
② 自校の学力スタンダードに基づき、授業力向上を推進して生徒の基礎学力の定着と一層の学力向上を推進する。(学習指導)	③ 東京都の学力スタンダードの仕組み通り進めている。 【課題】学力到達最低点を、徐々に引き上げること。	B																					
③ 生徒全員の部活動加入を目指し、部活動の内容を一層充実・改善していく(生活指導・学校経営)	③ 部活動加入率は5月1日現在87% 合宿参加部活動は3部、4回。 【課題】一層多くの部活動が夏季合宿に参加すること。	B																					
(4) 地域の幼・小・中・高、特別支援学校等との交流・連携・協力関係を推進する。		B																					
① 設備拠点校実習を生かした実習の連携を行う。(学校経営・組織体制)	① 連携校の要望に応えた形の実習を行った。 【課題】一層、連携校の要望を受け改善すること。	B																					
② 地域の行事に積極的に参加し、地域並びに幼・小・中学校・特別支援学校等との交流・連携を推進する。(学校経営・組織体制)	② 地域との連携は年間11件・13日に及んだ。白鷺特別支援学校との連携を図り交流会に3回出席し連携を強化した。また、互いの文化祭に出展するなど生徒間の交流が深まった。 【課題】一層、生徒間の交流の場を拡充すること。	A																					
③ 教科「奉仕」の活動を通して地域の一員としての自覚を持った生徒を育てる。(学習指導・生活指導・進路指導)	③ 教科「奉仕」における体験活動は、地域の保育園・老人ホーム・共育プラザとの連携により様々な体験を可能とした。事後には、班毎にまとめを行い、発表会を実施してプレゼンテーション能力を高めた。 【課題】一層意欲的に取り組み、自発的に奉仕活動やボランティア活動に参加すること。	A																					
③ ホームページの充実、中学校訪問、体験入学、学校説明会等、積極的な広報活動を行う。(募集・広報活動)	④ 生徒会の生徒による学校説明と学校案内を昨年度に引き続き継続して実施し、来校者から大絶賛された。 【課題】一層、生徒の活躍の場を広げること。	A																					

### 3 次年度以降の課題と対応策

高校生としての「義務と責任」を自覚させるとともに、「時を守り、場を清め、礼を尽くす」生徒の育成を図る。

技能を重視した工業高校のリーダー校として、生徒に確かな技能・技術を身につけさせ、自信と誇りを持たせるため教育活動を充実、発展させるため、次の特色を一層推進する。

- 活発な部活動・資格取得指導・充実した行事・ボランティア活動
- 地域に根ざし、地域に貢献する教育活動

#### (1) 中途退学者の減少 中途退学者0の方針を掲げ学校全体で取り組む。

- ① 基礎・基本の定着を図る指導を充実させ、授業を真剣に取り組み、最後まであきらめずに努力する態度を育成する。
- ② 都立高校学力スタンダードに基づき自校の学力スタンダードを作成して組織的・効果的な学習指導を推進して学力の定着・伸長を図ること。
- ③ 各学年と分掌との連携を密にし、生徒の基本的な生活習慣を確立し、規範意識を根付かせる。
- ④ 定期考査毎に欠席者一覧表を作成するとともに、個別指導対策会議を設置し、課題ある生徒への指導を学校全体で取り組む。
- ⑤ 保護者との連携を強化するとともにスクールカウンセラーを活用し生徒の課題解決を図る。
- ⑥ 学校保健委員会・教育相談推進委員会を機能させ、生徒の変化を早期発見・解決できる体制とする。

#### (2) 就職希望達成率100%を維持し、卒業時の進路未定者を減少させる。

- ① 市民講師、卒業生等を活用した進路ガイダンスを充実させる。
- ② 計画的な進路指導を充実させる。
- ③ 職場見学・インターンシップの積極的な拡大・充実を図る。
- ④ デュアルシステムを発展・活用し進路指導を充実させる。

#### (3) 資格取得、検定合格の実績の維持・向上を図る。

- ① 講習会を充実させ、関連する授業等を活用し資格取得指導を充実させる。
- ② 資格取得を喚起するため情報提供や指導を工夫する。
- ③ 各種コンテスト・発表会に出展・出場する機会を増加させる。

#### (4) 規範意識と登下校時のマナーを向上させる。

- ① 規範意識の向上を生活指導の重点課題と位置づけ、生活指導部と学年との連携のもと、HR指導、地域巡回指導、セーフティ教室、マナー教室等を実施し生活指導の充実を図る。
- ② 携帯電話・スマートフォン・インターネットの正しい活用法の指導を充実させる。
- ③ 東京都生活指導統一基準に基づき、本校での取り組みを強化・浸透させる。

#### (5) デュアルシステム推進校として教育活動の充実を図る。

- ① デュアルシステム推進校として、長期就業訓練（ワーキングプログラム）の受け入れ企業の拡大を図る。
- ② 専門高校としての特色ある講座を実施する。

#### (6) 地域に貢献する教育活動、部活動・生徒会活動、奉仕活動等の推進を図る。

- ① 各部活動の活性化を進め、加入率の向上を図るとともに生徒会活動の活性化を図る。
- ② 中学生を招くスポーツ大会・ものづくり教室等の拡充を図る。
- ③ 江戸川区役所・江戸川区教育委員会・地域自治会・地域産業団体と連携した教育活動を推進する。

#### (7) 校内組織体制の見直し・改善を進め、全校一致した教育体制の構築を図る。

- ① 将来構想会議を充実させ、新たな取り組みに結びつける。